

CD-Rom 製造現場の不良・安全・事故ゼロ対策へ向けた 「ヒューマン・エラーゼロ化の技術」

著者：日本能率協会 専任講師 中村 茂弘

1, 要旨：

- 昨今、社会問題を起こしている犯罪とヒューマン・エラーを区分した上で、最新技術を駆使した上で行う真のヒューマン・エラー要因の分析から、「原因の除去」～予防策追求を行うための実務書として作成したものです。
- ① 昨今、社会問題を起こした、食品・建設・プールやジェット・コースター事故事例を解析し、犯罪発生メカニズムの分析～犯罪学環境学利用による各種の防止対策をCSR面からの対策方法を例示。
 - ② 技術革新、IT化の時代にあって、あらゆるポカヨケ手法を適用を評価～検討し、具体例と共に適用事例を紹介、人的なヒューマン・エラー対策前におこなうべき対策を明示。
 - ③ ヒューマン・エラー対策は、作業手順の中に発生する何らかの欠陥により生じるため、科学的手法を用いた「原因分析～原因の除去」原因となる内容として、(I) 無知が招く問題の要因除去対策、(ii) 大脳生理学・人間工学・心理学を用いた防止対策、(iii) CRM という航空機事故対策で開発～適用成果を得てきた内容を製造現場で実務的に活用する要点を紹介。(注釈：CRM: Crew Resource Managementの略称)

内容の一部紹介を裏のページに案内させていただきます。なお、本件の背景をなす。なお、21社とともに実施してきた不良・クレームゼロ対策研究会活動の内容は下記、URLで詳しくご覧になれます。
URL : <http://home.catv.ne.jp/dd/aqcdltdr>

2, 記載内容

5章の構成
全173ページ

実務を通して、異業種21社とともに研究～適用実績を得た内容と事例を紹介した実務書です。

第1章 犯罪／ヒューマン・エラーを峻別すべき必要性

- 1-1, 「コスト重視で品質無視」という不思議な事例の解析
- 1-2, 犯罪行為発生メカニズムについて
- 1-3, 犯罪対策とヒューマン・エラーの区分

第2章 アラームシステムとポカヨケの整備

- 2-1, ポカヨケの由来と種類
- 2-2, 不良対策におけるポカヨケの位置づけ
- 2-3, ポカヨケの種類と具体的活用

第3章 無知が招くヒューマン・エラーの対策 (知っていれば防げるミス)

- 3-1, 会社側が行うべき、HE対策のためのスピード教育法
- 3-2, 個人が行う無知防止「HE自助努力対策」の必要性

第4章 簡単な実施で、効果が高いHE対策の技

- 4-1, ベスト・ウェイ探求法
- 4-2, ひと味違う標準化活用法
- 4-3, HE対策のための組織的な標準化・順守対策

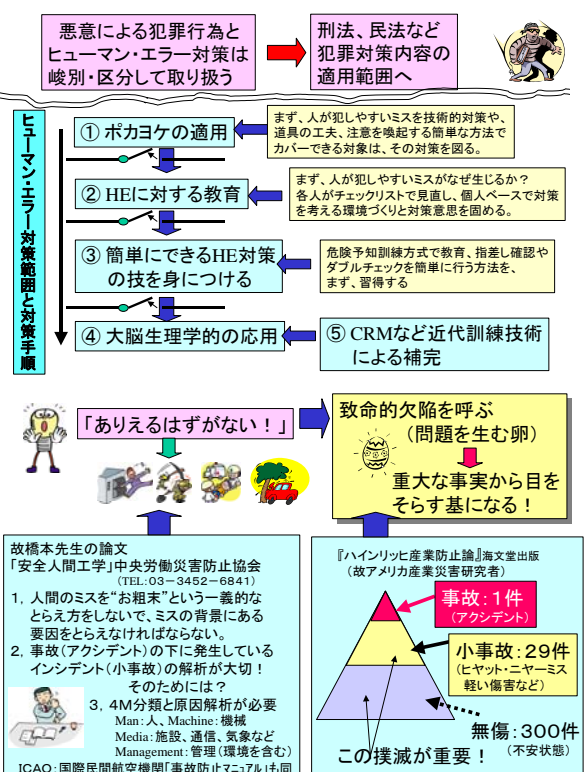
第5章 人間工学・大脳生理学利用によるヒューマン・エラー対策

- 5-1, 古いHE解析と大脳生理学による解析の差
- 5-2, 大脳生理学によるHE発生要因の把握～活用
- 5-3, TZD研究会によるヒューマン・エラー対策MAP

第6章 CRM対策に学ぶ訓練+事例研究法

- 6-1, ヒューマン・エラー対策とCRM
- 6-2, CRM～ISOシリーズに学ぶリスク対策のあり方

書の記載内容とコンセプト

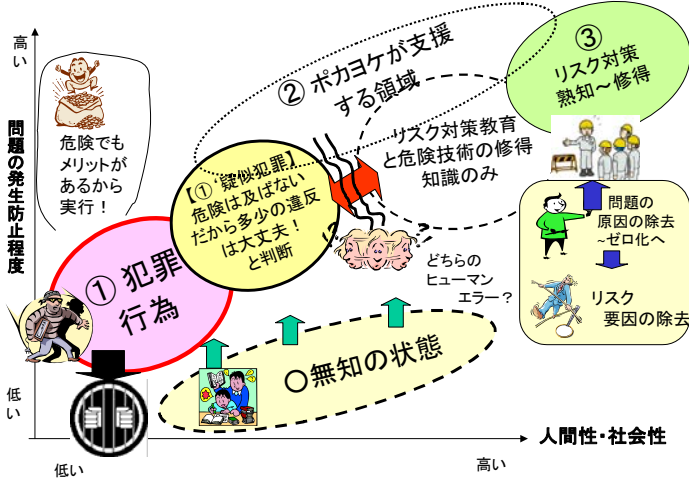


事故やHEのとらえ方

記載内容の紹介

本「ヒューマン・エラーゼロ化の技術」は研究会と、各社で実務指導の形で使用してきたものを書にしたものです。

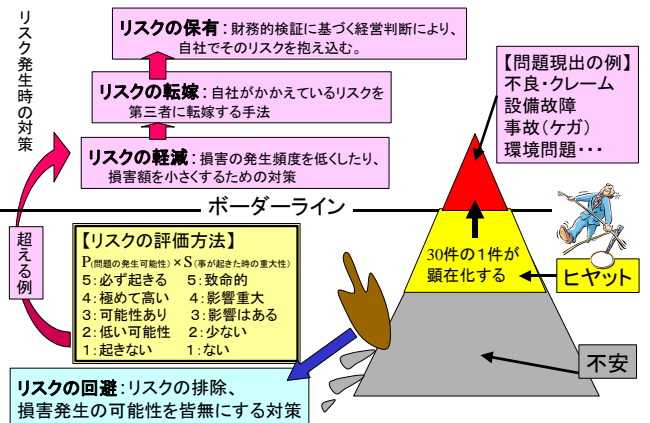
人が犯罪に近づくメカニズムとは？



ヒューマン・エラー対策コンセプト

不作為、管理の丸投げなど各種ISOと法を総合的に網羅し、マネジメントシステムとして、問題予防を進めた後、善意で仕事するが、発生するヒューマン・エラー対策を進める策を進める。

ヒューマン・エラーには発生メカニズムがある



リスクを管理下に置き、1:29のヒヤット対策が重要なキーとなる！対策手順は？

- ① まず、エラーセーフに有効なポカヨケ駆使
- ② 手順分析によるヒヤット要因の解析～原因除去を科学的手法で行う
(例：アイカメラなどの科学的・事実分析手法の活用等)
- ③ 大脳生理学による人間特性の対策へ

矛盾1 不良を出すと叱咤！

不良発生があると全員に訓辞と注意がなされる。関係ない部署への刺激策はわかるのか、...

矛盾2 改善発表会の運営？

なぜ事前検討が十分で不良が出さなかったところが改善発表がなく賞がなく、逆に、不良を出し対策したところが賞をもらえるの？

矛盾3 不良対策自由討論会の効果は？

不良を出さない関係者を含めた多くの対策案を創案する方式は適正？

各社成功事例を参考にしたヒューマン・エラー対策ガイド

対策1 QTATで問題発生をつかみ不良発生の本人に解析願う

不良を発生した本人が、その時行った仕事を見直し、原因を究明する。自ら試し→自ら成功体験を得る→成功は報償+標準化

対策2 不良ゼロ〇〇期間へチャレンジ

成功体験、良い取り組みを広げる

対策3 事後→発生時点対策 →事前検討へ

先手管理体制と文化づくりへ

製造現場におけるHE対策の矛盾対策の例

ご案内

下に紹介させていただくCD-Romは、書の執筆の際に作成した原稿です。書の価格を抑えるためカットした内容や、筆者が実務体験した実務的な内容を記載した泥臭い内容です。書を保管する詳しい内容を必要とする場合、ご活用願えると幸いです。
 なお、お申し込みは(社)日本能率協会ですが、販売は(有)QCD革新研究所となります。

..... 切り取り線

FAX : 03-3434-1275 (社)日本能率協会
 経営・人材ユニット 中村茂弘 宛

CD-Rom 「ヒューマン・エラーゼロ化の技術」

ご氏名：	お会社名：	ご所属
ご住所： 〒		
TEL： ()	FAX： ()	
E-Mail：		
お申し込み内容	税込み@¥2,300 × () 冊 = ¥	合計
本マニュアル代には郵送料は含みません。		
ご連絡事項など		